

## 用語の解説

### 「今後3年間」の予想経済成長率の算出方法

調査対象年の各年の予想経済成長率の単純平均値。

例) 今後3年間(21~23年度)の場合

平成21年度は20年度、平成22年度は21年度、平成23年度は22年度といった前年度からの予想経済成長率の3カ年の単純平均。

### (景気・需要見通し)の「業界需要」

海外需要も含む。

### 設備投資

工事ベースの額。土地の購入、中古品の購入及び建設仮勘定からの振替を除く。

### (設備投資の伸び率)の「過去3年間」の伸び率

調査対象年の各年の伸び率の単純平均値。

例) 過去3年間(平成18~20年度)の場合

平成18年度は17年度、平成19年度は18年度、平成20年度は19年度といった前年度からの伸び率の3カ年の単純平均。

### (雇用者数の動向)の「雇用者」

正社員、契約社員、パート・アルバイトは雇用者である。派遣社員は含めない(雇用契約の有無で考える)。

### 海外現地生産(生産高)比率

国内生産と海外現地生産をあわせた生産高全体に占める海外現地生産による生産高の割合。

海外現地生産(生産高)比率は販売価格による金額円ベースで以下の算式により求める。

$$\text{海外現地生産(生産高)比率} = \frac{\text{海外現地生産による生産高}}{\text{国内生産による生産高} + \text{海外現地生産による生産高}}$$

## 逆輸入比率

海外現地生産高全体に占める日本向けの輸出高の割合。

逆輸入比率は販売価格による金額円ベースで以下の算式により求める。

$$\text{逆輸入比率} = \frac{\text{日本向け輸出高}}{\text{海外現地生産高}}$$

## 階級値平均、平均（中央値）

階級値平均は、回答で選択された各階級の midpoint（例：「10%以上 20%未満」の階級であれば 15%）の値を用いて、平均値を算出したもの。ただし、上限のない階級は下限値（例：「20%以上」の階級は 20%）を、下限のない階級は上限値（例：「20%以下」の階級は 20%）を用いた。統計表の平均（中央値）も同様。

例）	レンジ	0～1%	1～5%	5～10%
	中央値	0.5%	3%	7.5%
	社数	10社	20社	30社

この場合の階級値平均、平均（中央値）は、以下の算式により求める。

$$0.5 \times 10 \text{社} / 60 \text{社} + 3 \times 20 \text{社} / 60 \text{社} + 7.5 \times 30 \text{社} / 60 \text{社}$$